

本日の審議事項は、決算、予算の関連と定款・規約の改正並びに役員選任案件でございます。

定款改正の内容は、役員定数の改正で、理事の定数減をおはかりするものであります。

その理由につきましては、詳細は議案説明の祭申し上げますが、要約して申し上げますと、合併による会員数の減少と、会の財政運営面からの判断であります。

なお、会の定款変更は農水大臣の認可を必要とすることから、本総会で議決後速やかに認可申請を行い、できるだけ早い時期に新たな定数に移行したいと考えております。このため今回選任される役員の任期は一年とする特例を設け、来年の51回総会で新たな定員による選任を行うこととするものでありますので、会員皆様のご理解をお願い申し上げます。

各議案についてよろしくご審議の上ご可決賜りますようお願い申し上げます。

ご来賓の皆様には引き続き特段のご指導ご支援を賜りますよう、またご参列皆様のご健勝・ご発展を祈念申し上げ、開会のご挨拶といたします。



決 議



秋田県土地改良事業団体連合会は、戦前・戦後の秋田県耕地協会、土地改良協会をその前身とし、昭和32年の土地改良法の改正に伴い翌33年に設立以来、本年11月を以て50周年の節目を迎えようとしている。

この間、戦後の食糧増産の国の政策に沿い、耕地整理、土地改良事業の施行に重要な役割を果たす市町村、土地改良区などの技術及び組織運営にわたる指導体制を築きながら、その共同の利益の増進を図り、食糧基地としての秋田県農業の発展のために尽力し、またその後も、日本農業の構造改革を図ろうとする諸施策に合わせ、土地改良のみならず農業農村の近代化を図る礎を支えてきた。

しかし近年は、世界各地では、温暖化をはじめとする、異常気象や大規模な災害発生など地球規模での環境の異変が危惧される一方、我が国では都市と地方の格差が拡大し、特に農村社会にあっては高齢化、過疎化に加え、米価下落に伴う農家経済の危機的状況も顕著となり、「いのち・循環・共生」の視点に立った農業と農村地域を持続していくことが困難な状況となってきている。

このような状況の中で、将来にわたって国民に安全・安心な食料を安定的に供給していくためには、社会経済の基礎を支えてきた農業の体質強化を図り、活力ある農村社会を構築していくことが喫緊の課題である。

幸い本年度から実施された「農地・水・環境保全向上対策」は、秋田県が全国最高水準の実施率を誇る中で、我々水土里ネット関係者が、これまで培ってきた技術や経験を生かし、地域振興に貢献しながら、これらの地域資源を次世代に引き継ぐための成果を引き出せる絶好の機会となっている。

加えて、本年10月14日には第31回全国土地改良大会を初めて秋田県で開催するこの重要な時期に当たり、我々水土里ネットの果たす社会的役割を自覚し、今後とも農政改革の推進に積極的に貢献していく覚悟である。

このため農業農村整備関係者は一致団結して、下記事項が実現されるよう本総会の名において決議する。

記

- 一、農業農村の発展と活性化が我が国発展の礎となることを再認識し、農業農村整備を我が国の重要な施策として位置づけ着実な推進が図られること。
- 一、大規模かつ優良な農業地帯の農業生産を支える基幹的な農業水利施設については、今後も国が責任をもって整備すべきであること。
- 一、水土里ネットと地域の連携をこれまで以上に強化し、「農地・水・環境保全向上対策」に主体的に取り組み、国民共通の財産である「農地」、「水」、の保全管理と農村環境の向上に一層貢献していくこと。
- 一、新たな時代の要請に対応できる水土里ネット組織の運営基盤の強化を図ると共に、健全な組織運営に努めること。
- 一、第31回全国土地改良大会秋田大会を成功させると共に、設立50周年を契機とし、連合会の多角な事業運営の展開と機能強化を図ること。

平成20年3月18日

秋田県土地改良事業団体連合会 第50回通常総会

秋田県土地改良事業団体連合会役員名簿

平成20年4月1日

役職名	氏名	所属団体名	備考	役職名	氏名	所属団体名	備考
会長	高畑 進	湯沢市岩崎弁天土地改良区理事長		理事	佐々木 紘一	内越土地改良区理事長	
副会長	小林 富義	能代市東土地改良区理事長		理事	山田 明	にかほ市土地改良区理事長	
副会長	高橋 規男	秋田県仙北平野土地改良区理事長		理事	高貝 久遠	秋田県田沢疏水土地改良区理事長	
副会長	古谷 英雄	秋田市豊岩中央土地改良区理事長		理事	藤井 弘道	秋田県南旭川水系土地改良区理事長	新任
専務理事	三浦 貞一	学識経験者		理事	柴田康二郎	秋田県雄物川筋土地改良区理事長	新任
理事	安保 富雄	かづの土地改良区理事長		理事	由利 傳	湯沢市中央土地改良区理事長	新任
理事	三澤 敏行	北秋田市綴子土地改良区理事長		総括監事	工藤久兵衛	井川町土地改良区理事長	
理事	戸田 達雄	大館市南土地改良区理事長	新任	監事	加藤 久孝	大仙市協和土地改良区理事長	
理事	安井 操	山本郡市川堰土地改良区理事長		監事	畠山 清俊	比内町土地改良区理事長	新任
理事	鈴木 順平	八郎潟西部干拓地区土地改良区理事長					

第49回

全国土地改良功労者表彰式

全国水土里ネット第50回通常総会

■本県から4団体、2個人が受賞

3月27日、シェーンバッハ砂防(東京都)で、第49回全国土地改良功労者表彰式、農業農村整備コンクール優良地区表彰式が開催された。

全国土地改良功労者表彰は、永年にわたり土地改良事業に尽力し功績が認められた土地改良関係者(優良団体、個人)が表彰されるもので、表彰式は毎年全国水土里ネットの総会に併せて行われている。今回は、農林水産大臣表彰優良土地改良区が5団体、優良土地改良区表彰として金章42地区、銀章47地区、銅章43地区、個人(役員及び職員)100名が表彰された。なお、本県からは金章の由利本荘市子吉土地改良区をはじめ2団体、2個人が栄えある賞を受けた。

なお、本県関係で受賞された方々は、次のとおり。

○優良土地改良区

(金章) 由利本荘市子吉土地改良区

(銀章) 秋田県仙北南部土地改良区

(銅章) 該当なし

○個人表彰

佐藤 弘志(鳥海町笹子土地改良区理事長)

須田 久(にかほ市土地改良区事務局長)

■全国水土里ネット通常総会が開催される

表彰式に先立ちルポール麴町(東京都)で、都

道府県水土里ネットの関係者が出席して全国水土里ネット第50回通常総会が開催された。

総会は、提出議案の平成18年度事業追加報告及び収入支出決算、平成19年度事業中間報告及び収入支出補正予算、平成20年度事業計画及び収入支出予算などの審議が行われた。

また、役員の新選任が行われ、新たに理事4名、監事2名が選任された他、「安全・安心な食料の安定供給や多面的機能の発揮の基礎となる農地や農業用水の整備・保全並びに農村の振興に必要な施策として、国と地方の適切な役割分担のもと、農業農村整備を着実に推進していくこと」など6事項からなる決議を採択して終了した。

なお、全国水土里ネットの主な役員は次のとおり。

会 長 野中広務(京都府土地改良事業団体連合会会長)

副会長 吹田 幌(山口県土地改良事業団体連合会会長)

” 館澤宏邦(岩手県土地改良事業団体連合会会長)

” 段本幸男(前参議員議員)

専務理事 佐藤 準(学識経験者)

常務理事 新井安廣(学識経験者)

秋田県 農地・水・環境保全
向上対策地域協議会

■平成19年度第3回検討委員会を開催

3月27日、秋田市(ルポールみずほ)で「第3回秋田県農地・水・環境保全向上対策に関する検討委員会」が、6名の検討委員や事務局などが出席して開催された。

検討委員会は、同対策に関わる交付金の交付



状況の点検、活動組織の取り組みに対する評価及び指導・助言、地域協議会に対する助言など

を行うために昨年9月に設置された。

委員会は、黒子県農林水産部次長のあいさつの後、長濱委員長が議長を務められ、平成19年度の実施状況及び平成20年度の取組予定などについて議事が進められた。平成19年度の実施状況では、地域協議会の交付金の交付状況、活動組織の取組状況(共同活動支援・営農活動支援)、一年間の活動を通じた課題などについて事務局からの報告があり、引き続き活動組織の取り組みなどについて意見が交わされた。

各委員からは、「まだ、一般の人に対してPR不足である。もっと都市部の人に活動を知らせる工夫が必要」、「活動が継続的に出来るような体制づくり考える必要がある」、「地域協議会のホームページ活用は有効であるが対象が限られる。他のメディア、広報手段も検討したらどうか」などの指導・助言をいただいた。

なお、検討委員会のメンバーは次のとおり。

◇委員長：長濱健一郎(秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科教授)◇副委員長：児玉徹(全国農業協同組合連合会秋田県本部参与)◇阿部幸悦(由利本荘市社会福祉協議会理事副会長)◇田村陽子(ホリプロスポーツ文化事業部アナウンサー)◇柏田一雄(一般公募委員)◇田仲和子(一般公募委員)



平成19年度 農用地等集団化関係優良地区

功労者表彰受賞される

3月17日(月)、仙台市「KKRホテル仙台」において、平成19年度農用地等集団化優良地区等表彰式が行われた。

表彰式では平成19年度の農林水産大臣表彰地区として、全国8地区のうち、岩手県：奥玉地区、福島県：八丁目地区が受賞され、東北農政局長表彰として秋田県からは、大仙市(旧神岡町)の「神岡下川原地区」が受賞された。当地区は、大仙市及び地元神宮寺生産組合が中心となり、将来の集落営農及び法人化を見据え、換地計画では集落別集団化を推進し、併せて田以外の畑・原野等の地目別集団化を図り、優良農地を確保し、89.5%に達する高い集団化率を達成するとともに、農作業の受委託を中心とした生産組合への利用集積を推進したことの貢献により、東北農政局長表彰となった。

また、引き続き全国農地集団化協議会及び東北農業農村整備推進協議会関係の表彰が行われ、

秋田県からの優良地区及び功労者表彰は次の地区及び功労者が受賞された。

◆東北農業農村整備推進協議会長賞 (農地集団化部会長賞)

・優良地区表彰

「金岡地区」(秋田県能代地区土地改良区)

「白岩第一地区」(仙北市)

「金西東部地区」(秋田県南旭川水系土地改良区)

「金沢地区」(秋田県南旭川水系土地改良区)

「福地地区」(おものがわ土地改良区)

・功労者表彰

「高橋 良一」(十文字町土地改良区)

「齊藤 保雄」(羽後町土地改良区)



▲優良地区表彰「金岡地区」の受賞者